

甘い幸福感

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン
「今日のフォーカスチェンジ」第2558号
(2010年10月30日発行)より

ことばというものは、いつも、二面性、ときには、多面性をもっています。「甘える」このことばもそうですね♪

たしかに、ときとして、「甘えるな!」「甘えはゆるされない」みたいな表現として使われることもあります。でも、恋人が、まるで甘えてくれなかったとしたら(とくに男性は)、はりあいがないでしょう。あるいは、子猫が、ちっとも甘えてくれなかったら、すごーくサビシイですね。(笑)

私たちが、「〇〇はいけない」と律するとき、このもうひとつの面を切り捨てていることが多い気がします。「甘える」ということばは、文字が示すとおり、「甘い」というところから、来ていると思います。昔は、甘みのある食べものが少なかったから、甘いものは、特上のごちそうだったのです。

甘いものを食べているとき、ひとは、幸せな顔になります。甘いということは、もう、それだけで幸せなことなのです。

ところが、甘くて幸せな気分になると、ついつい顔もこころもゆるんでしまいがちです。「甘えるな」というのは、そんなとき、あえて気をひきしめるために、使ったことばなのでしょう。そして、いつしか、この後半の意味ばかりが、強調されるようになったのではないかと思います。

さらには、すでに「甘えてはいけない」ことを修得したおとなが、子どもにそのままそれを適用したということはないでしょうか。「甘えてはいけない」を受け入れるためには、十分に甘えるという体験をし尽くす必要があるのです。でないと、「甘える」とは何かわからないからです。だから、まだたっぷり十分に、「甘える」という幸せを体験しつくしていない子どもに、「甘えるな」と言うことは、なめているあめを途中でとりあげるにひとしいことだと、私は思うのです。

余談ですが、これは、「迷惑をかけるな」にも通じることだと思います。「迷惑(をかける)」とは何かを、体験をもって知ったあとでないと、ひとは、「迷惑をかけてはいけない」ということばの意味は、わからないのです。

たっぷり甘えることができると、子どもは、深い幸福感を体験できます。そして、成長

するにしたがって、この幸福感は、ひとからあたえられるのを待っていないでも、自分自身で作りだせることがわかります。こころの深いところで、たっぷりとつちかわれた幸福感は、ひとに、自信をあたえてくれます。私は、その幸福感を手に入れているのだ、という自信を。そしたらもう、「甘えては」いませんよね。その幸福感を手に入れるために、全力を尽くしますよね。

これについては、私自身、苦い体験があります。自分に自信がなかったとき、私は、最後まで、全力でことをなすことができませんでした。いつもどこかで「投げて」、代わりに、誰かがやってくれることを期待していたのです。

ときには、表面的には、ひとが自分の仕事をとりあげたかのようにふるまいながら、その実は、自分からひとに「甘えて」いたのです。その結果は、ちっとも幸福ではありませんでした。

その後、本当に本気で全力を尽くすことができたとき、「甘え」なくてもいいんだということが実感でき、さらには、そんなときには、ひとが、自分に、たくさんサポートしてくれるのです。そう、しっかり「甘えさせて」くれるのでした♪

なんだかことば遊びのようになってしまいましたが、私の伝えなかったメッセージ、伝わっているでしょうか。「甘い」ということは、人生のエキスです。どうぞ、たっぷり、甘い幸福感を味わってください。あなたは、あなたの人生で、その甘い幸福感を体験しているのです。そして、どんなことでも、本気で全力を尽くしたとき、その幸福感に到達することができます。

そのとき、あなたは、「幸福感」を得るために全力を尽くせる自分を楽しめるようになるでしょう。そしたら、もう、(マイナスの意味での)「甘え」なんか生まれないのです。

ことばというものは、いつも、二面性、ときには、多面性をもっています。迷ったときは、どうぞ、自分にブレーキをかけるほうではなく、エネルギーをあたえるほうを、選択してください。そして、それを有効に活用してください。あなたにとっての最高の幸福を、遠慮なく受け取ってください。

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」(かめおかゆみこ編集・発行)は、**2003年11月1日**創刊。**2010年9月**、**2500号**達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講義は「かめわざ快心塾」から♪

<http://kamewaza.com/>